

第424回鉄鋼流通問題懇談会

2013年2月20日(水) 14:30

茅場町「鉄鋼会館811」

議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪、愛知、東北地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇2月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
 - (3) 総括：林全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2013年5月20日(月) 14:30 ~

於：日本鉄鋼連盟4階第1会議室

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2013年2月）

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
		伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	兼松
1. 需給動向(景況感)		昨年12月の政権交代による円安・株高により国内経済環境の雰囲気は一変し、新政権による20兆円規模の緊急経済対策や金融緩和政策が実行されていけば経済環境は好転するであろう。震災の復興・復旧需要なども次第に本格化すると期待されるが、足元2013年1月以降の荷動きは未だ低位横這い推移で変わらず。但し、2月以降の引合いは土木・建築案件を中心に増えており、荷動き活性化の様相。市況については高炉・溶協メーカーによる陥没価格の是正、及び3月以降の値上げ表明を受けて安値は切り上がる傾向にあり、今後流通各社は再販価格への転嫁に向けた動きを開始の予定。	12月末の薄板三品在庫は前月末比2.7万トンの391万トンと3ヶ月連続で減少した。在庫率は前月の2.51ヶ月から2.44ヶ月に低下し、在庫調整が一定程度進展しており、適正水準に近づきつつある。また鉄鋼メーカーにおいては、1月中に値上げ表明を行い、国内陥没価格の是正、及び安定収益を確保するための価格形成に向けた動きが本格化しており、今後市場への浸透が進むと思われる。	12月末の厚板在庫は338千トンで前月比7千トン減となったが、出荷の減少により在庫率は上昇。メーカーの値上げはあるものの一般店売の足元の荷動きは盛上りに欠け、切板市況の上昇には至っていない。造船は、円安に振れているものの、船価の低迷から受注増には繋がっていない。建機の生産計画に大幅な変動はないが、年度末に向けて多少増産予定。建築、土木は来年度の需要増に期待。	棒鋼：値上げ前の先行手配の反動にて足元の引き合いは低調ながら、市況は強基調で推移している。鉄スクラップの高値安定、円安による副資材の高騰、4月以降の電力料金の値上げなど、電炉メーカーのコストアップは確実に製品への価格転嫁が急務となっている。形鋼：1月後半より荷動き悪く2月に入っても変化なく低調に推移しており、市況も強基調ながら落ち着いている。しかしながら先行きの建築需要は堅調にあると思われさらなる市況上伸が予想される。
2. 需要産業動向		建築関連では住宅ローン減税、消費税増税前の駆け込みによる戸建着工棟数の増加が顕著となり、住宅メーカー及び関連資材メーカーは活況を呈している。建機関連は4月以降中国での生産が一部戻りつつあり、急遽材料手配に動いているが、日本国内での生産は依然厳しい状況変わらず。自動車関連では10-12月は一部の大手メーカーが生産調整に入ったが、1-3月はほぼ調整前のレベルに戻している。	政府月例経済報告によると、景気は弱い動きとなっているが、一部に下げ止まりの兆しもみられる。12月の自動車国内販売は、軽自動車の新型車投入効果等により15ヶ月連続の前年同期比プラスとなるも、エコカー補助金終了の反動減から普通車は4ヶ月連続のマイナスとなり、全体では4ヶ月連続マイナスの30.6万台となった。産業機械分野は土木建設機械、工作機械ともに前年同期比マイナスで推移し、全体では7ヶ月連続の前年同期比マイナスとなっている。弱電分野では、薄型テレビの不振による大幅な減少に加え、民生用電機分野が前年を下回り、全体では21ヶ月連続で前年を下回る状況にある。一方、11月の住宅着工戸数は前年同期比10.3%増の8万戸となり、3ヶ月連続のプラス、年率換算着工戸数は90.7万戸と11ヶ月連続で80万個を上回っており、引続き持ち直しの動きは継続している。	造船の12月末の手持工事量は2,785万G/Tで前月比0.6%減と減少傾向が続く。建設機械の12月出荷金額は1,613億円で前年同月比23.5%減(5か月連続減)。内需は628億円で5.6%増(21か月連続増)。外需は985億円で35.0%減(7か月連続減)。産業機械の12月受注金額は4,206億円で前年同月比77.1%、内需は2,638億円(90.0%)、外需は1,568億円(62.1%)。建築需要は復調傾向にあり今後更なる増加を期待するが、人手不足で工事の遅れも懸念される。	2012年12月の新設住宅着工戸数は、75,944戸と前年同月比10%増と4ヶ月連続の増加となった。新設住宅着工床面積は、6,649千㎡と前年同月比8.4%増と4ヶ月連続の増加となった。持家、貸家、分譲住宅ともに増加。全建築物の着工床面積は、1,149万㎡と前年同月比13.1%増。公共の建築主は63万㎡、前年同月比35.1%増。先月の減少から再びの増加。民間の建築主は1086万㎡、前年同月比12.1%増と4ヶ月連続の増加。
3. 輸出入動向		2012年12月度の溶鍛接鋼管の輸入量は対前月比11%減の14,959トンとなっている。輸入材の大部分を占める韓国材の輸入量も同様に12%減(12,688トン)となっている。	11月の普通鋼鋼材輸出は熱延薄鋼板が9ヶ月連続の増加、冷延薄板類が6ヶ月連続の減少となり、合計では前年同月比15.9%増の229.8万トンで、2ヶ月振りの増加となった。また輸入は韓国、台湾、中国からの入着減少が続く、前年同月比18.2%減の36.2万トンと2ヶ月連続で減少している。	12月の輸入実績は38千トンで前月比2千トンの増。中国からの輸入はなし。輸出は325千トンで前月比77千トン増。	輸出：2012年12月のH形鋼の輸出量は、51,661トンで前月比181%、前年同月比38%のともに大幅増となった。平均単価は57,060円/トンで前月比5529円の下落。異形棒鋼は、20,817トンで前月比22%の大幅減、前年同月比14%減少。平均単価は43,841円/トンで前月比107円の値上がり。 輸入：2012年12月のH形鋼の輸入量は2948トンで前月比28%、前年同月比67%のそれぞれ大幅減となった。平均単価は53,477円で前月比1605円の値上がり。4ヶ月連続で値下がっていたが値上がりに転じた。
4. 海外市場動向		油井管：石油・ガス供給過多の状況下、米国を中心にマーケットは下落推移しており、在庫も上昇傾向にある。また、東南アジア・中近東では安価な中国材の流入が顕著。 ラインパイプ：大型プロジェクトは総じて活況だが、北米・豪州を中心とする非在来型エネルギー開発(シェールガス・炭層ガス等)も堅調。一方、インド・中国メーカーの台頭により、日本勢は更に厳しい競争を余儀無くされる。	海外市場は、欧州政府債務危機や米国における財政問題等により、景気下振れリスクがあるものの、当面は弱い回復が続くことが見込まれる。海外鉄鋼市場では、鉄鋼メーカーの鋼材販価立て直しの動きとともに、各地で鋼材市況は穏やかに反転上昇している。各地区をみると、アジアでは中国の春節明けの需要期を迎えること、韓国の鉄鋼メーカーの設備休止を伴う工事が予定されていることから、今後の鉄鋼需給への影響を含め、引続き注目する必要がある。米国においては、自動車の生産販売の好調、住宅建設の回復傾向が続いており、また主要鉄鋼メーカーが値上げを実施したことが奏功し、2ヶ月連続で市況は上昇している。欧州においては、11月の域内自動車新車登録台数がドイツ、フランス等主要国を中心に落込み、全体では前年同月比11.4%減の104万台と14ヶ月連続の前年割れとなり、鉄鋼需要は低迷が続いている。	中国市況は春節の影響もあり顕著な実需の増加はまだ見えてこない。宝鋼が2月積の鋼材価格を値上げし、また新政権発足に伴う景気回復期待から原料コストが上昇。鋼材市況も上昇傾向にある模様。	中国国内の鉄鋼生産量は過剰状態にあり、中小民間鉄鋼製鋼所は合併が促され、具体的な実施時期及び鉄鋼業界への影響が注目されている。需要と供給ともに旺盛とは言えず市況は安定しており、春節連休明け後の相場は、高値安定と思われる。
5. トピックス					

鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2013年2月)

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向 (景況感)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本経済は新政権の経済対策への期待感などから、円高修正、株高など景況感は年明け以降改善し、明るい兆しが出てきている。個人消費、住宅投資が比較的堅調に推移するなか、鉱工業生産に持ち直しの動きが見られ、設備投資も上向いている。世界経済は、米国で緩やかな景気回復が続き、中国も景気底入れしたほか、欧州情勢も足元小康を取り戻している。 ・ 国内の12月の粗鋼生産は前年同月比+2.0%の857万トンと4ヶ月ぶりの前年比プラスとなった。普通鋼鋼材出荷(12月国輸計)は前年同月比1.9%増の599万トンと2ヶ月連続で増加した。一方、12月の普通鋼鋼材輸入は前年同月比▲11.5%の36.0万トンと3ヶ月連続の減少となった。こうした中、12月末の普通鋼鋼材在庫(国内)は545万トンと2ヶ月ぶりの増加となった。 ・ 海外では、12月の世界粗鋼生産(62カ国)が、前年比2.4%増の1億2129万トンとなり、12年暦年の実績は前年比1.2%増の15億2千万トンとなった。うち中国粗鋼生産は7億2千万トンと前年比+3.1%の増となり、中韓ミルの生産及び輸出量は依然高水準であり、引き続き注視が必要である。 ・ 12年度の鋼材内需は、製造業向けは造船・建機を中心に依然低調であるが、建設業向けで復興需要を下支えに増加し、前年比ではほぼ横ばいとなる見込みである。13年度は、足元の円高修正や大型補正予算の効果も見込まれ、徐々に上向きになっていくであろうと期待している。
2. 需要産業動向	<p>[建築] 12月新設住宅着工戸数7.6万戸(前年同月比10.0%増)。4ヶ月連続のプラス。 12暦年の着工戸数は88.3万戸。12ヶ月連続で80万戸を上回った。</p> <p>[自動車] 1月国内販売36.4万台(前年同月比8.7%減)。 12月完成車輸出40.0万台(〃12.7%減)。 12月四輪車生産70.2万台(〃17.2%減)。</p> <p>[産業機械] 1月工作機械受注 前年同月比26.1%減の720億円。9ヶ月連続のマイナス。</p> <p>[造船] 12月末手持工事量 2,758万GT(前月比0.6%減)。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出] 12月の全鉄鋼輸出は、387万トン、2ヶ月連続の増加。</p> <p>[輸入] 12月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比11.5%減の36.0万トンと3ヶ月連続の減少となった。国別では、韓国(前年比7.1%減)が3ヶ月連続、台湾(〃12.2%減)が2ヶ月連続、中国(〃37.5%減)が10ヶ月連続で減少した。</p>
4. 海外市場動向	<p>中国の12月粗鋼生産は、5766万トン(前年比7.7%増 前月比0.3%増)</p>